

		地域課題	ポイント	必要度	手立て(対応策の検討)
高齢者のニーズ		透析や糖尿病で食事に配慮が必要なのが判断できない	相談窓口の情報提供		配食弁当の試食会・病院や包括主催の勉強会の実施。栄養についての理解、情報提供の実施。
		スマホが上手く使えない	情報収集や交流の手段	◎	スマホ教室、活用できるアプリ一覧表示、転倒時に家族通知・血圧測定を活用して健康管理。情報を早期に知ることができる環境づくり。
		独居や高齢の方の緊急時の対応	急変時の早期発見・災害時対応	◎	緊急通報システム、救急医療キット、緊急災害情報の確認、家族と話し合う。近隣との交流。ネットワーク作り。
		自転車が乗れなくなった	きたバス以外の移動手段と情報提供		訪問診療、ネットスーパーや移動販売、セニアカー。
住民・地域の課題		防災無線が聞こえない	屋内での有線伝達方法		ケーブルテレビやラジオ、緊急通報システム、市のホームページやLINE閲覧。
		安否確認が取れない	個人情報の取り扱い、顔の見える関係づくり		調査票作成、避難行動要支援者の登録、近隣の見守りとツール。牛乳、新聞配達の利用。外に伝えるツールを準備する。
		趣味や活動以外に近隣で行われる地域交流がない	対人交流の機会を増やす	◎	地域の行事に参加、自分が教師となる教室。ニュースポーツができる場所。
社会資源の課題	介護	段差で転倒の可能性がある	転倒予防の環境を整える	○	手すりなど住宅改修を行う専門的なアドバイス、転倒リスクの数値化(リハビリ)と訪問リハビリ。
		病気の理解と予後の対策	声掛けで自助意識		本人と家族を交えて話し合い。専門職の意見。
	医療	災害時の医療機関の対応	透析は水が120L必要。	◎	医療依存度が高い方の人数把握・他県への応援要請可能、自家発電の軽油配給。
		避難所の医療支援	2次予防、感染予防		現地の医療とつなげる。情報を把握する。
	住まい	自分の避難先を知らない	視覚で分かるツール		防災マップや避難先がどこか記載した物を掲示、支援者や地域の声掛け。
		ライフラインが止まった時の対応	連絡手段や電力の確保		発電機の容量供給、電話がつかない時の横のつながり。
	予防	独居老人は低栄養になりやすい	フレイル予防		地域や包括の勉強会に参加する。楽しく食事する機会を作る。
		災害に備える	家具の固定、転倒予防	◎	耐震施策。救急医療情報キットに避難所を記載する。自助として本人が備える。
	生活支援	食事や栄養の認識の薄さ	塩分量を控える意識		管理栄養士の訪問、配食弁当の特別食の工夫をする。
支援者の課題	専門職の数・資質	災害時の自助意識付け	防災の情報を知る		防災の避難所への家族への促し。メールでの情報把握をする。
	連携・ネットワーク	多様な情報伝達ツールの活用	スマホで情報共有	◎	MCS(メディカルケアステーション)、BCP、レインボーネットの活用。